

子どもが一番

2007.02.01

過去 10 年間で 2 番目に遅いインフルエンザの流行が始まりました。今のところワクチンをしていない人の感染がほとんどで、私のクリニックの周りではあまり広がらずにばらばらという感じです。

子どもが育つためにはさまざまな手間とお金が必要です。その手間とお金を省いてしまうことを私の関係している子ども虐待の定義に従えば、ネグレクトや子どもにとって養育環境が悪いという意味のマルトリートメントといいます。あきらかに子どもの世話をしていないというネグレクトという虐待は、ここ数年、身体的な虐待を越えて目立つようになりました。虐待にかかわる関係者は、将来的にネグレクトにつながるマルトリートメントも増えてきていると実感しています。最近の給食費滞納問題の報道を見ると、マルトリートメント？と考えざるを得ない状態が蔓延しているかのようです。集金袋で払うものは目に見えるので仕方なく払うけど、給食費のように振込みになっているものは子どもたちの目に触れないので、逃げ得といわんばかりに払わないという親はマルトリートメントとみられても仕方がないので私は考えています。人の目に触れないものは何とかごまかして・・・、という親の姿は、子どもが育っていく上で必ずどこかで学習します。自分たちの職場や地域で、言い訳してお金を払わないような人に出会ったり、ずるをされて何かをごまかされる当事者になったとき、その人たちはどう思うのでしょうか？きっとそんなことは許せないと思うはずです。なのに自分がするときは許されるのでしょうか？

経済的に給食費を払えない人には、市町村は減免処置を講じています。ある地方では、給食費未納問題のために、誓約書を書いたり、職場からの強制徴収などの処置を講じるようになったと聞きます。そんなことが、日常的でよい訳はありません。

子は親の鏡、親は子の鑑といいます。子どもたちの模範になり、子どもが第一と考える大人でありたいですね。